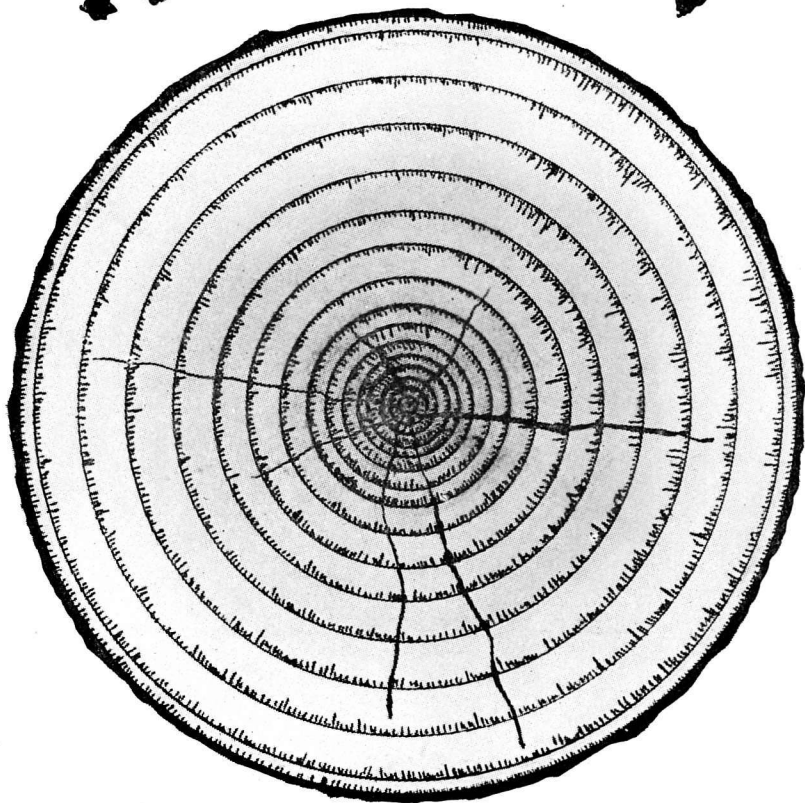


紫 筍



中 川 美 奈 子

文京高校同窓会報 No.9

昭和三十九年三月一六日

編集部

何のことだか多くの会員の諸氏には理解できない見出しだと思えますが、生涯わすれられない人達、すなわち、三百九十九名の新会員の入達の卒業式の日でありました。

戦後卒業式らしい卒業式もなく卒業した方々もそれなりに忘れられない思い出深いものを今にもちつづけておられることと思います。

この日行われた卒業式の席上、三年間の感激をこめての答辞をここにのせますが、すっかり、高校時代を忘れていた方々に対し、母校を思い出すよすがともなればと思えます。

(答 辞)

石走る垂水の上のさわらびの

萌え出づる春になりけるかも

この佳き季節の一日私どものためにかくも盛大な卒業式を挙行して下され校長先生の懇切なる御訓辞と来賓の方々の身に余る御祝辞を賜わり感謝に堪えません。

人間形成に於て最も重要な高等学校の三年間この文京で三人の校長先生を始め諸先生方の慈愛に充ちた御薫陶を戴いた感銘は永く忘れ得ないことでありましよう。

楽しかった修学旅行 荒天の瀬戸内海での船酔いの苦しさや 本州最南端潮岬に洋々たる黒潮の太平洋を望んだ感激は今も彷彿として思い出されます。

その後は誠に慌しい一年でした 母校の伝統に恥じぬよう努めると

誓って先輩を送り出した時には、いよ／＼最高学年であるとの責任と自負を強く感じつつもまだ一年残っていると思ったものでした、その一年が過ぎた今、それが余りにも短かったことを思いますと、光陰矢の如し、という言葉が切実に感じられます。

就職に進学にと 受験勉強に追われて学校内外の行事や自治活動各人の自申研究や趣味からも遠避かり家庭の空気までも暗くし授業をも疎かにし勝ちだったこの一年間思えば本当に心苦しい日々の連続でした、そしてやゝもすれば高等学校教育の本来の姿を見失い生徒の人間性を歪めかねない試験制度の在り方を恨めしく思ったこともありまして、けれどもこの苦しさの中で得た友情や自制力勉学の習慣等は貴い経験として生涯の財宝となることと思います。

今年オリンピックが東京で開催されます。世界平和の象徴であるこの国際的祭典を高校を巣立つ年に迎えることは日本が民主的平和国家として再出発した年に生を享けた私どもには一人の感激であります途は遠く個人の力は微々たるものではあります私どもは平和の世界の実現と人類の繁栄に尽し日頃の御薫陶に報いたいと期しておりますいよ／＼懐しい先生方ともお別れの時が参りました。

鷺田津に船乗りせむと月待てば

潮もかなひぬ 今はこぎ出でな

別れの悲しみは尽きませんがこの万葉の古歌の高らかな意気を付して未知の大海原へ船出しようとする今 先生及在校生の皆様御健康と母校の発展を祈念して答辞といたします。

昭和三十九年三月十六日

東京都立文京高等学校第十六期卒業生総代

八 木 和 子

卒業生の数も五千名こえ、毎年五百名近い新会員となると、期がちがえば勿論のこと、同期のなかでも見知らぬ人となりかねない。

毎年一度は同窓のつながりとして会員を出して来たのであるが、今回は、在学中一度は活動したクラブのグループについて特集した。どうか、現在クラブとのつながりをもたない人も、これを機会に、クラブの懇談会などには出席し、同窓のかためをして高校時代を思い出してもらいたい。

生物部(今)

2J 寺田誠司

まず昨年の状況。だいたい二年生が中心となり各グループによる研究体制をとり、解剖による脳の部分比較、抗生物質、海岸動物の観察、例えばテリトリイ等、ヒドラ、プランナ

リアの再生実験、ホテイアオイの観察、ゾウリ虫の観察、金魚の温度変化による反応、ウニの発生等である。数年前には、全員での共同研究が数年間続けられた事もあった。最近の例では『ゾウリ虫の総合研究』があり、これは高田先生の専門でありましたから、最初に始められた先輩から後輩へと受け継がれる

クラブ今昔

時には、みっちり指導された先輩が後輩に教えられたさうであるが現在では、この様な事は見られない。であるから一年生、現二年生は文化祭用のみ準備して研究を進める始末であった。そして、勿論文化祭以後は急に活動が止まってしまった。この状態で、今年を迎え、新入生が入部し我々は部の中心、また先輩となったのである。指導はおろか自分等の計画さえ五月に出来、六月から本格的活動が始まった。今年も昨年の継続となってしまうのか。それでも、ネズミの脳刺激による神経の反応、イモリの再生及び性質の観察、花粉分析、ゾウリ虫の観察等が行なわれている。新入生は一応二年生と共同し、助手的な立場をとらせた。

また、最近では、他校との研究発表会が小石川高校で出され、本校生物部としては、これに参加するとともに研究への活発化、積極的な態度を改めて心に刻みたい。

生物部(昔)

山口敏二郎

早いもので東京を巣立ってからかれこれ八年になる。この六月に突然と編集部の方から

厚稿依頼をいただき、久しぶりに楽しかった生物部に想いをほせ、思いつくまに筆を執った。今でも良く覚えてるのは憧れの生物部に入部した最初の日に、ガミさんこと石上先生にどなられたことである。新入生として勝手の分らぬまま準備室でうろちよろしている

とやにわにこうやられた。「バカヤロー。こんな所で何やってるんだ」その後もガミさんにはよくどなられたがこの時ほど驚いたことはない。どなられたらどなり返すのが最善の方法であると悟ったのはそれから半年も経ってからである。準備室で一喝すれば教材園のあるテラスまで響いたあの声がなつかしい。当時の部員は約二十名ほどであったろうか。放課後ともなるとあの二階の生物準備室に押しかけ、実験をするというよりはむしろガミさんを相手にトグロを巻いていたようである。大体において当時の部員には一國一城の主みたいのが多く、じつくりと腰をすえて実験をする者よりも、虫とか草とかの生きものが無上に好きだというマニアが多かった。やたらに虫を採って来ては、休み時間も放課後も準備室に入りびたって、虫に針を突きさし

くらぶ今昔

てニヤニヤしていた僕などその最たるものであったろう。そして皆が一生涯命精を出して励んだのが解剖であった。やたらに採集して来たヘビとかカエルとかを解剖する時、何か自分がすばらしいことをしているような錯覚を持ちクロロホルムと死臭がむんむんする中で夜遅くまでダベルのが無上に楽しかった。校庭でつかまえた野良猫を、部員の晴舞台である秋の文化祭で解剖をしてしまったのも僕が二年の時であった。その時先頭でやった一級上のTさんがなつかしい。現在の生物部を僕は全く知らないが、当時の生物部には一種のサムライが集まっていたように思う。ガミさんのもので好き勝手なことをして過した生物部の思い出が、よくガミさんに行った高尾山とともに、こうして曲りなりにも研究者としての道を歩みつつある僕にとっては、なものにもかかげがえのないものである。

昭和三十二年卒業

(東京教育大学大学院 理学研究科博士

課程 植物生化学専攻)

書道部(今) 2年I組 高森こなみ
書道部は、部員数約三十名。毎週金曜日、土曜日に、おちついた雰囲気の中で、筆をふるっています。今年度は例年より、部員数が少なく、あまり目立った活動はしていないのですが、新年度になってやっと軌道に乗りはじめたばかりなのでこれから大いにがんばろうと全部員はり切っています。

現在は、毎年夏に開催される「台東書道展」に出品するため、各人それぞれ、顔真卿の得意な人、虞世南が得意な人、また、文京書道部伝統の隸書が得意な人など、皆最高賞を取らんと、熱のこもった稽古を先生のよき御指導を得てしております。

また、文化祭のときには、書道部員全員で一つの課題を選び、みんなで協力して壁一ぱいになるほどの大きな共同作品を制作します。昨年の文化祭には、智永千字文を書いたのですが、たいへんではあっても、なか／＼好評でした。それに毛筆ばかりではなく、ペン習字をする人もあります。それとともに、自分達の書いたものばかりではなく、日展などの展覧会へも行って、私達には及びもつか

ない立派な作品を観賞し見る目も養うようにしています。

書道というものは、今、少し稽古をしたからといってすぐに上達するというものではありませんので常に練習しようとする努力しています。

書道部(昔) 鈴木 芳子

卒業以来、ずっと筆を持ったこともなく、今では、子供のお相手で一日が過ぎ、たまにテレビの深夜映画をみるような生活です。さて、当時の部は……正直に言って、すっかり忘れてしまいました。

墨をすり、無心に書く、これといって目立つような活動もなかった部には、若い人は、魅力を感じなかったのでしょうか、部員は十数名と少なく、土旺の練習日には、常時出席者が五・六名位で、非常になごやかなものでした。

お手本に向って、たっぷり墨を含ませ、書き出す瞬間は何ともいえないものがあります。展覧会にも出品はしましたが、あまりかんばしい成績とはいえませんでした。それでも、

土旺日になると、筆を持って集っていました。下手の横好き、いや、部員の関係上、抜けれなかったのかも知れません。

クラブの予算は、一番少ない方だったのではないでしょうか。

予算要求など、もっと積極的にすればよかったですと悔まれます。

社会に出て、いろいろ見聞し、もっと予算があれば、また違った意味での活動が活潑になったと思います。

顧問は阿部先生でした。

一部についての直接の御指導などは、あまりしていただけませんでした(練習中、後に立っていられては試験のような気持になり、かえって落着きませんので、よかったと思います)が、大変御世話になりました。改めてお礼申し上げます。

昭和三十年卒

排球部(今)

後藤信太郎

現在の文京高校バレー部は、確かに未完成なクラブです、しかし私達部員は一人一人バレー部員であるというエリート意識をもつて

目標に向かって日々練習に励んでいます。そして今にきつと自分達の満足できるものを窮め得たいと思っています。

さてクラブ活動を行っていくにおいて、どうしても悩みというものが生じてくると思います、それは鍛錬として私達の精神面の進歩というものを促すと思いますが、クラブ活動を徹底するとなると、むずかしい問題が自然に生じます。私達は近ごろむずかしい問題にぶつかり話し合いました、これもクラブ活動では必要なことであると思います。

バレー部の練習はかなりきびしいものでしょう、しかし部員は其中で楽しみを見い出したいと願っている、そしてバレーを通してつかむもの一人一人異っていても皆きつとこれから楽しさをつかむことを信じているようです。

また今の部員は皆互いに相手を理解し助け合いとともチームワークがとれていると思います。

というように私達は悩むこともあり、時には楽しく語り合い、お互をはげまし合い、つらい練習の上に、若々しい私達の可能性を信じ

ているすばらしいクラブであると思います。

排球部(昔)

笠原悌二朗

私達のバレー部には、O・B会があります。これは、現役とO・B。若手O・Bと先輩O・B等の相互の親睦をはかるのを目的としています。

年に三〜四回会合があり、必ず一回は現役選手との交歓試合が行なわれます。このO・B戦には、毎年数十名のO・Bが参加し、O・Bだけで三チームも四チームも作る時があります。

かつては高校排球界の猛者であったO・B連も、先ごろ入って来た6人制に伴うホールディング改正に近頃は面喰って、つい昔覚えしプレーが出、現役連より教示を賜わることがしばしばです。しかしそんな事で動揺するようなO・Bチームでもありません、いつもそこは、O・BのO・Bたる迷プレーによりいつの間にか勝つのが常です。しかし、現役がこんなO・B組を足下にも寄せつけずにしまふ事もありました。そんな年は、必ず四回戦、五回戦又は関東大会出場という成果の上がっ

クラブ今昔

くらぶいんじやく

ている年です。バレー部の監督は年と共に移り変り渋谷先生に始まり、浜松先生から現在の宇都宮先生、御子柴先生、小沢先生となつています。バレー部のO・Bを一人紹介しますと食堂の加藤さんが我部の古参O・Bです。(昭和三十七年三月卒、教育大・体育学部)

野球部(今) 横山 雅久

夏の大会も近づき、毎日練習に励んでいます。定時制との関係もあって、以前のようにボールが見えなくなるまでやるといふわけにはいかなくなりましたが、四時半までの一時間半を、有効かつ集中的に使い、効果のある練習にしようと思命です、三年生と二年生とが中心になるのは当然のことですが、新入生もまじめによくやってくれるので非常に助かります。また毎日必ずひとりかふたり先輩が指導しに来るので、気持ちに張りができ

練習にもそれが反映して、みんなの行動に節度が見られます。さてこういふ練習の成果はどうでしょうか。今までに他校と三試合行い、一勝二敗です。敗けたほうはともかくとし六月七日の武蔵ヶ丘高校との試合について

少しふれてみましょう。得点は八対一、全員よく打ったし、またよく守りました。電車に乗ってここまで来たのだから負けては帰れないという気持をみんなが持ち、監督を中心に、一致協力したことが勝因だと思います。これから先大会まで、まだ何試合か練習試合がくんでありますが、その一戦一戦を勝ち抜いて勝てる、負けないんだ、という自信、また夏の暑さをのりきる体力、実力をしっかりと身につけたいと思います。

毎日毎日の激しい練習、しかし野球部員は野球、そればかりやっているわけではありません。勉強の方面でも、単に落第しないようにというのではなく、良い成績を取るようにと、野球と同じぐらい一生懸命勉強にも励んでいるのです。

野球部(昔) 松島 嘉南

私が春休みの練習に参加して希望を持ったのは三年生のたくましさでした。さらにこわいのは片岡先輩でした、誰もが先輩の視線の中に入ると足がガクンときたものです、一年の夏の大会で法政一高に大敗して、その先輩

に報いることが出来ないまゝ事情により先輩は去っていかれました。私はこの時期が現在の文京とこれ以前の文京とが大きく転換していったスポーツの様に思います。私は文京高校の隣の中学校で野球をやっていた関係上文京野球部の「良さ」は知っていました。ネット裏の垣根からもぐり込んで特等席?をよく手に入れたものです。真黒に日焼けした捕手に向って投げ込むすばらしい投手、いかにも四番打者というたのもししい打者、全てが私のがれでした、夕方、暗くなってノックを受けている者も必死でした、彼らには自信というものがみなぎっていました、彼らの汗がグラウンドを湿めさせたのではないかと思わせる程熱心に黙々と練習に励んでいることが不気味な感じを与えた。しかし私達が一年に入って夏の大会が終ると共に指導者を欠いて、自己満足の練習に陥り精神的、技術的自信の伴わない野球部へと下降線をたどってしまった。毎年毎年人材が変っていく文京野球部に先輩達の気力を野球部の基調に残せなかつた事が今さら残念に思える次第です。

「教養」と

都民劇場

日 江 井 英 夫

(二期A組)

「楽しみ」と

「あなたはなぜ新劇へ行くのですか」と聞かれて、「教養のために」と答える人は多いだろう。新劇が音楽会に変わっても答はそれほど違うまい。しかし、これが歌舞伎だとしたら、あるいは映画だとしたら、「教養のために」と答える人はどれだけのいるだろう。そんな答え方をすれば、自分の人格を疑われることになりかねないから、「楽しみのために」と答えることになろう。しかし逆に、新劇や音楽会に、「楽しみのために」行くと答える人は、ほとんどいないに違いない。

考えて見れば、妙な話だ。しかし、むべなるかな、という気にもなつて来る。つまり、新劇も音楽も、明治以後、日本に移植されたものだ(映画もそうだが、これは産業と考えよう)。舶来物に弱く、特に伝統があるものには一層弱いのが我が同胞日本人の通弊であつて見れば、新劇や音楽のように「彼地の高い精神生活の所産」を鑑賞するのは「教養」のためであるという特別のレッテルを貼り、「教養人」を自認するエリート意識を満足させるのが、一部の人にはまことに好都合であつた。しかし、その時代は終つたのだ。

今や、そういう言葉の魔力から解放されなければならぬ。大いに楽しみながら、新劇へ、音楽会へ行こう。その積

み重ねの上に、いつとはなしに形成されるのが、本当の教養なのだ。そこに至るまでに、多少の試行錯誤があつたとしても、それは当然すぎるくらい、当然なのだ。

(旧制二期A・20年卒)

「貯蓄なくして

自由なし」

角丸証券企画室

鈴木啓三郎

三井財閥中興の祖といわれる三井八郎右衛門が間口九間、奥行四十間という当時としてはケタ外れに大きい越後屋呉服店をはじめたのは一六八三年のことです。看板は「現金切売り掛値なし」です。現在のデイスカウント式現金安売りを三百年も前に考え出したのですから、まさに革命的なアイデアです。特定の客を中心とした御用商人に見切りをつけ、流動的だが永久に変らない大衆を顧客にしようという着眼が生んだものです。

呉服物ではデイスカウントだとか切売りもできませんが、株にはそういう妙手はありません。しかし何人かの人のお金を集めれば株をもつこともできます。切売りとは逆にこれは共同で買うわけです。これも立派なアイデアであり、投資信託のはじまりとなります。

投資信託は今から一〇〇年ほど前、イギリスで始められました。その後、米、国、日本、ヨーロッパと現在では世界各国

で盛んに行なわれております。今の若い方には貯蓄など将来の問題と考えられるでしょうが、永井荷風の「貯蓄なくして自由なし」という言葉をしみじみとかみしめたいと思います。(旧制二期C組・20年卒)

職業に

内閣総理大臣

官房審議室

関する雑感

西村英一

ちよんまげ時代には、職業選択の自由は殆んどなかった。生れついた土地で親代々の職業を継ぐ以外に生きて行く途はなかったのだ。今の有難いご時世は、一億総スカウト時代とでもいうか、職業を変えることが当然というような風潮すら出てきている。しかし、人間ひとたび或る職業につくと、そうはやすやすと変えられないものだ。私は国家公務員だが、昭和二九年の不況期に就職戦線に遭遇したので、コネのない身では、この道に進むのが手取り早かったのである。よくいわれる「すまじきものは宮仕え」をしばしば実感しながら、今日まで職業も変えず、ずっと同じ道にいるし、今さら変える勇氣もない。多くの人は、私と似たような境涯にいるのではなからうか。ところが最近びっくりする話を聞いた。文京時代のクラスメートのM君が、会社側の懇請を断ち切り、十年連れそった職業に見切りをつけたそうだ。入社一二年で方向転換というケースは、しばしば見聞きしてきたが、M君

のような中堅十年選手のこととなると、何かそぞろ身につまされる。よくよくの後の決心と思うが、M君が今後新しい職場で活躍されることを祈ってやまない。

職業として何を選ぶか、それは極めて難かしい。一人選んだら、なかなか変えられないものだからだ。諸先輩や周囲の人々の話をよく聞いて慎重に決めることが必要だ。余りにしばしば転職する人がいたら、その人は人格的に欠陥が多いのではないかと思う。

(新制二期B・25年卒)

ふくろう

俳優

齊藤隆

フクロウのような生活が毎日続いています。昼は眠り、夜スタジオと……東京オリンピックの為に先どり先どりで昼寝の時間も日々少なくなつて居ります。八月公演もその為に来年に延期。作者の筒井敬介氏が書く気が無くなると云われるのを、なんとか拌み倒して、とにかく来年三月八日より十四日迄。大手町、日経ホール、三幕四場。//波たたず鶴の港//に決定。39・6・24・記

(会報の発行がおくれましたので、内容上後半をカットさせて戴きました。編集部)

日本武道館

建設課長

角田立吉

柔道五段

「日本古来の武道精神を高揚し、社会正義と平和の大理想に貢献せんとする日本武道館の建設を祝し、関係者一同のご苦勞を心から感謝いたします」

全日本官公職協議会議長菅原栄悦氏からの祝電が読みあげられる。永田町の首相官邸で開かれた日本武道館建設基金募集パーティーは、政、財界、粒ぞろいの約四百名が集り盛会であった。思えば一銭の金もなく一寸の土地もない、ただ一つの「国技の総合会館建設に関する決議」(38—8—28)自民社会民社三派共同提案、満場一致採択)をたよりに土地をさがし金を都合し、努力し築き上げて来た関係者一同はオリンピックまで後百日工事に募金に最後の力をふりしぼって頑張ろうと決意を新にしました。

電気関係が専門の私に建設課長をやれと数回に亘る話に、しゅんじゅんしながらも今からなら間に合うと思つて飛込んだのが三八年一月。設計関係は勿論土地を定め、既存建物の国及び都からの払下げ、撤去解体と、努力だ、根性だ、至誠一貫だと関係官庁を飛び歩き、地鎮祭を行なったのが三八年一〇月三日午後から掘さく工事に取かかり、一部からはオリンピック迄には間に合わぬと云われながら現在の出き高八五

％間に合う見通しもついたので関係者一同の御協力と武道館建設の一つのムードであると思ひ感謝しております。在学当時式日には「至誠一貫、右以て本校校訓となす」と耳たこになりましたが、至誠一貫事に当り行きつまつたら、ぶつかつて見ると道は自ら開けるものであります。武道館の紹介は長くなりますので後日又させて頂きます。

(旧制一期D・20年卒)

職業への抱負

RKB毎日放送

ラジオ営業部課長

福地義男

放送の業界に飛びこんで、十年になりますが、毎日毎日が煩雑で、特に職業に対して、抱負、至綸といったものを、余り考えたことも、ありませんでしたが、いざ抱負となると、いささか固くなります。民放は御存知のようにスポンサーとともにいきていかなければなりません。その窓口として、営業があるわけですが、兎角スポンサーに迎合しますと番組は低俗化し、自主性を強調すると番組がうれなくなるという、むずかしい問題をかかえています。従つて、僕達営業関係者は、放送という公器に対して正しい認識をし、そしてスポンサーを良導しなければならぬ縁の下の責務があります。

日常的なこと柄ながら、これが簡単でもっとも難かしい問題なのです。普段感じていることを改めて認識するというこ

とでおゆるし願います。

転勤の先生のご消息

思いつくまま

長野工専英語担当
成 沢 紀 夫

長野市の東北、国道18号沿いに徳間という所があり、長野工専はその「徳間田圃跡」に在り、現在もぬかるみの敷地内で第二期工事が進行しています。

工専の良い所は何と云っても始まったばかりの清新の気が教職員、学生の間で漲っていることです。一学級の人数が四十人そこそここの点も有難く、教室でも縦に五人内至六人総勢一堂に会しても校長の警咳に接せずといえども遠からず。都会の生徒と比較して洗練されてはいませんが大人に対する不信感は少ないし、大学受験を目指しているわけでもないのによく勉強します。機械工学、電気工学等の専門科目と普通高校でやるような一般科目とで時間割はぎっちり組まれ七時限の日が週に四日もある詰め込み教育ですが学生は落着いた気分です。勉強に身を入れ、行事、クラブ活動に楽しみを見出しているようです。学生は全県下から集まって来て、半数は自宅通学、半数は学寮に入っています。現在ロングホームの時間に自分の郷土の話をさせていますが、「僻地から来た〇〇君」

「空気の澄んでる××出身の△△君」等、出身地を冠したニックネームが流行しています。

教職員の倍数の事務職員が居ることも有難い点で、学務係七人、厚生補導係六人が学生の厚生補導その他事務的雑務を担当してくれるので教職員は雑用から解放されていると云えます。

結局工専の良い点は普通高校のように大学の予備校化の心配無くリベラルな人間教育と時代の要請に合う職業人の育成とが出来た事だと私は考えます。

昭和38・4・1～39・4・10の会計報告

委員長 渡辺剛章 会計 西岡 弘

監査の上正確である事を認証します。

監 査 静谷晴夫 光山保士

1. 財産目録 (イ) 貸付	64万円		
(ロ) 現金	20万2百9円		
(ハ) 物品、両開書庫・葉書印刷機・書類入れ・手提金庫			
2. (収入)		(支出)	
寄 付	29,550	運 営	45,425
利 子	37,124	会 報	37,000
利 益	72,450	発 送	48,570
入 会	239,400	事 業	90,055
繰 越	282,735	貸 付	240,000
(計)	(661,259)	(計)	(461,050)

三九年就職状態

- (A組) 石上二郎先生
 相田伊久子(野村証券)
 荒木 洋子(東洋工業)
 小沢 節子(安田火災海上)
 小野 豊子(山一証券)
 鈴木 久子(衆議院速記)
 武井 幸子(三菱銀行)
 谷 泰子(豊島区役所)
 林 千代(文化放送)
- (B組) 毛利和夫先生
 石下 勝彦(ソニー)
 相磯 朝子(丸紅飯田)
 免地 季子(住友生命)
 高橋 玲子(日本交通公社)
- (C組) 山崎興一先生
 新巻 映子(フジテレビ)
 兼坂 恵子(洋裁店)
 川井 渥子(東芝)
 小林久美子(沖電気)
 齋藤 康江(神戸製鋼)
 芝崎 麗子(南海放送)
 島田 怜子(日本勸業銀行)
 田村えみ子(豊田自動車販売)
- 早川 和子(安田火災海上)
 原田 和子(富士銀行)
 宮下 妙子(エーザイ)
 (D組) 太田泰弘先生
 小滝 憲一(木村屋)
 亀井 吟子(日本勸業銀行)
 松本寿満子(北海道拓銀)
 吉野 政子(フジテレビ)
 (E組) 赤坂正雄先生
 影山 衛(大商証券)
 石田 恵子(武田薬品)
 稲見 敬子(三菱ふそう)
 梅野美智子(三菱銀行)
 岡田 竜江(勸業銀行)
 霞 弘子(三菱電機)
 川崎 博子(エーザイ)
 木野美美子(住友銀行人形町)
 黒川 温子(キャノンカメラ)
 小柳喜美子(都公務員)
 後藤 知子(丸善)
 後藤 佑子(東京証券代行)
 佐藤 栄子(伊藤忠)
 酒井 香(丸紅飯田)
 仲田千枝子(松下電器)
 三瓶多恵子(佐々木ガラス經理)
- 能村 幸子(山一証券)
 森 伸子(大阪金属総務課)
 横山キヨ子(勸業銀行)
 渡辺恵津子(三菱銀行)
 渡辺 和子(勸業銀行)
 (F組) 西岡 弘先生
 大橋 修三(東洋レヨン)
 大平 勝紀(合同労組組合専従)
 阿子島洋子(山一証券)
 石井 幸子(三井生命)
 岩佐 信子(三菱信託)
 稲葉美智子(三菱信託)
 今村佳世子(第一生命)
 梶田 靖子(エーザイ)
 金子 昭子(富国生命)
 香田 幸子(森下仁丹)
 砂生 房子(富士銀行)
 一定 美江子(三菱銀行)
 坂本 俊子(富士電機)
 桜井 勝代(山一証券)
 須藤 民代(第一銀行)
 武田 恵子(興亜石油)
 中道佐世子(三菱銀行)
 中田 栄子(日興証券)
 山崎エイ子(丸紅飯田)
- 山口久美子(日商)
 山口 安代(高千穂交易)
 山口 容子(三菱レヨン)
 山田ひろ子(プリンス自動車販売)
 吉田 弘子(安川電機)
 波部トシ子(第一生命)
 戸沢百合子(三洋電機)
 (G組) 徳峰良昭先生
 白鳥 市子(東京マックスファクトリー)
 佐野千賀子(三井生命)
 野田みや子(公務員)
 橋本よし江(住友銀行新宿店)
 水谷 久子(三菱信託銀行)
 (H組) 中屋澄子先生
 齋藤 純夫(順天堂)
 荒井百合子(東京海上火災)
 小林 尚子(三菱商事)
 福島 文子(住友金属工業)
- 文京高校同窓会会報「紫筍」九号
 発行 昭和四〇年三月一日
 住所・豊島区西果嶋三の八五八
 電話・九八一—八二二三—番
 編集・阿部みよ子・中村五子・
 定方昭夫・米山敦子・西岡弘
 印刷所・東洋印刷株式会社

